えましょう。その意味でも、大衆肉の生産を目的とした「あか牛の肥育」は、近代的企業としての畜産のなかでも一つの〝妙手〟といえます。

あなたの場合は、ご家族の労働力も手ごろだし、飼料としての甘藷や大麦、燕麦もとれますので、褐牛の肥育は適切な事業でしよう。

そして常に一頭〜二頭程度は手もとに肥育しておいて、順ぐりに出荷し、年間三頭〜五頭の出荷になるようにします。

甘藷は肥育飼料として非常にすぐれていますし、若令肥育だと、壮令のものより少なくてすむ訳ですから、いまの栽培面積でも大丈夫でしよう。冬の間は甘藷のサイロをつくつたがよいでしよう。

しかし、肥育は部落の「共同事業」で進めることがあらゆる点で有利です。素牛の買い入れから出荷まで共同で行い肥育様式も同一にします。

くわしい技術的な問題や協業化の問題等は、県の出先機関である家畜保健衛生所や改良普及員、あるいは農協等にご相談下さい。

（畜産課）

養豚の将来性は？

問　私は城北にひろがる畑地帯の一農村青年です。わが家の経営も、畑作一本ヤリではもうこれ以上の収益増加はのぞめないので、同志と話し合つて養豚に乗り出そうと、いまいろいろと調査中ですから、次の三点についてご回答願います。

(1)　値段の見とおし、

(2)　豚肉の需要状況、

(3)　「多頭飼育」は、何頭程度が適当か、また「共同飼育」する場合の注意などをお教え下さい。

（菊池郡七城村　農事研究会の愛豚生）

答　お尋ねの順にお答えしましよう。

(1)　**極端な価格の変動はないでしよう**

豚肉の値段は、毎年四月から七月上旬にかけて、最も安くなる傾向があります。これは春仔がうまれるため頭数が増すのと、農家ではこの時期が最も現金がほしいので、豚の出廻りが自然と多くなるのが原因です。

今後は、全般的な値下りに対しては、政府が食肉価格の安定策として、法律の制定や枝肉出荷、冷凍施設、飼料対策などの措置がとられつゝありますので、ある程度の相場の変動があつても、極端な価格の変動は避けられると思われます。

(2)　**豚肉の消費は伸びていきます**

昭和三十四年度には二万二百頭も消費し、年間おゝむね順調に伸びてきました。ところが、昨年度は豚肉が急激に値上りしたので、飼育頭数は増えたのに、消費は逆に一万五千頭と減少しましたが、全国的にみると、大都市の消費量が増えていますので、さほど減少しているとは考えられません。

これからの所得の向上と食生活の変革につれて、豚肉の消費は相変らず伸びていくでしよう。

(3)　**一〜二頭の飼育は不利**

県内養豚農家の一戸当り平均飼育頭数は二頭ですが、この程度では利益が少いものです。せめて常に四頭以上を飼育し、単なる現金かせぎとしてではなく、農業経営の一端をになう事業であるという考え方で進めるべきです。

「共同飼育」は有利である反面、豚舎の設備や素豚の導入、飼料購入などに一時的に多額の経費がいりますので、融資方法についても、役場、県事務所あるいは農協等に相談して、十分な資金計画をたててから実行に移るべきでしよう。

また、関係団体と常に密接な連絡をとることや、各人の労力の提供、利益の配分が公平に行われるように心がけることも忘れてはなりません。

（畜産課）

畑作改善はどのように？

問　私は純畑地帯の農家の青年です。一・五町耕作していますが、収入は少なくて生活は楽ではありません。そこで、県でも奨励しておられるように、畜産収入を主体とした経営に転換したいと考えています。しかし親たちは、失敗した人の例をもち出して賛成してくれません。

そこで、私は畜産導入をはかる前に、畑作で労力と資金の余裕を作りたいと思います。

その方法などを教えて下さい。

（鹿本郡植木町　農事研究会員）

答　畜産収入を主体とした、営農改善の計画には賛成です。

畜産を導入するには、手間と資金が多くいりますので、この点を十分考えて準備しなければ成功しません。

今までに失敗された方々の経営状態を見ますと「畜産はよさそうだ」と無計画に導入されたため、失敗されている方が多いようです。畜産収入を主体とした営農に転換するには、普通作面では「省力・多収化」をはかつて、労力と資金の余剰を作ることがたいせつです。普通作の省力・多収化の例としては、効率的な農機具を導入して、作業内容を向上し、能率化すること。除草剤を使用して労力を省くこと。新らしい技術をとりいれて栽培法を改善することなどがあります。

除草剤使用の効果の実例では、昨年各地の農業改良普及所で、畑稲早期作に使用した結果では、除草剤を使わなかつたものにくらべて、反当三〜四人の労力節減となりました。

新らしい技術の総合化の実例として麦のドリル播きでは、反当三〜四割の労力の節減、反当収量三〜四割の増収となつています。

反当収量の増加例として、甘藷作の場合で、育苗の改善（露地ビニール育苗、床面積の拡大）や施肥改善（緑肥、加里肥料の増施）で三割位増収した例はいくつもあります。畑地では堆肥増施が作物増収のカギと考えてよい位に、堆肥は必要です。しかし堆肥の増産には材料の制限があり、労力は多く要します。

普通作の改善と同時に、畜産の導入に進む場合、畜産の「種類」と「頭数」をうまく選定することが重要です。

適地に適畜を集団的に導入することが大切ですから、部落位の単位で、畜産導入を希望する農家と指導者間で話しあうことが、生産・販売いずれの面からも有利です。

いずれの場合も、飼料自給体制をしつかりとうちたてておかなければなりません。資金対策としては、「農業改良資金」や農協の系統資金がありますので、これらを有利に利用して下さい。

（農業改良課）

天草の片すみから

問　天草の西海岸で、水田五〇アール、畑六〇アール、それに山林（雑木）四〇アールを所有している中農家です。

一昨年から畑一〇アールに温州みかんの計画密植を始めました。水田は五年程前から全面早期稲作に切り替えたため、経営がいくらか安定したとは思いますが、将来を考えると不安でたまりません。

今後はどういう経営にしむけたらいゝかお教え下さい。

（天草郡河浦町　心配生）

答　あなたの不安はよくわかります。農業経営はほんとうにむづかしいものです。紙数がないので、今後の経営の要点だけ考えてみましよう。

将来は柑橘を中心に

第一に将来の経営の中心を何にするかということです。それにはまず、どんな物が一番消費が伸び、従つて売り易いか、また、その地域の条件では、そのうち何が適するか？ということで作目を選ぶこと。

そして、その作目をできるだけ安く生産するために、労力の配分を考え、機械導入も加えて、作業能率を上げ、その方向に経営の拡大をはかること。

作つたものをできるだけ高く売る態勢（もうけの多い売り方）を考えること。さらに大切なことは、途中の期間をどうやつてつないでいくかということです。

あなたの地域では、地勢の関係で、普通畑の面積を拡大したり、作業効率を上げるにも限界があります。そこで、将来の方向の中心は当然柑橘類になるべきでしよう。如何にして早く柑橘園の規模を拡大し、それから早く収入が上げられるようにするか、ということに集中すべきです。

従つて、もちろん将来は普通畑も殆んど全部果樹園にすべきですが当面はそれまでの生活のつなぎもありますので、半分程度はそのままに止め、むしろ、山林の開園可能なところを早く果樹園にすることです。

そのためには、当然相当の資金が必要でしようから、「農業改良資金」等も利用して下さい。

そして、最初から全体の果樹園にわたつて作業効率が上るように、農道の整備や、貯水施設、防風林、あるいは浸蝕防止の手段等までも考えてやつて下さい。

その間、地域の人達が皆同じ心になつて、その地域がひとつのまとまつた産地として形をとるようにつとめねばなりません。できるだけ効率の上る機械を共同購入し、共同利用するとか、農協中心に苗木をはじめ、肥料、農薬その他諸資材も共同購入し、いよいよ出荷がはじまれば、共同選果、共同出荷を完全に実施するなどの体制をとることです。

さて、それまでのつなぎをどうするか。それには残された水田、畑の高度利用につとめねばなりません。水稲早期は品質不良と騒がれていますが、品種を切り替え、また、特に乾燥・調製を慎重にやれば、必ず悪名を返上することができます。

また、跡地の集団利用もたいせつです。天草は温度に恵まれていますから、抑制そ菜をもつと取りいれるべきでしよう。ただ、そ